

令和3年8月18日
令和3年度全国こころのケア研究協議会
(於・広島県立総合精神保健福祉センター／WEB)

地震と水害 ふたつの自然災害後のこころのケアについて

- 1) 医療法人信愛会玉名病院
- 2) 公益社団法人熊本県精神科協会 熊本こころのケアセンター

矢田部裕介

本日の内容

1. 熊本地震とこころのケア
2. 熊本豪雨とこころのケア
3. おわりにかえて



平成28年熊本地震

- 2016年4月14日21時26分(前震)
16日01時25分(本震)
- マグニチュード7.3(本震)
- 最大震度7(益城町、西原村)
- 震度4以上の地震148回
- 震度1以上の地震4544回(H30.10月現在)
- 死者272人(直接死50人)
- 重傷者1,202人
- 全壊・半壊:43,388戸
- 避難者ピーク:18万人



熊本地震のこころのケア

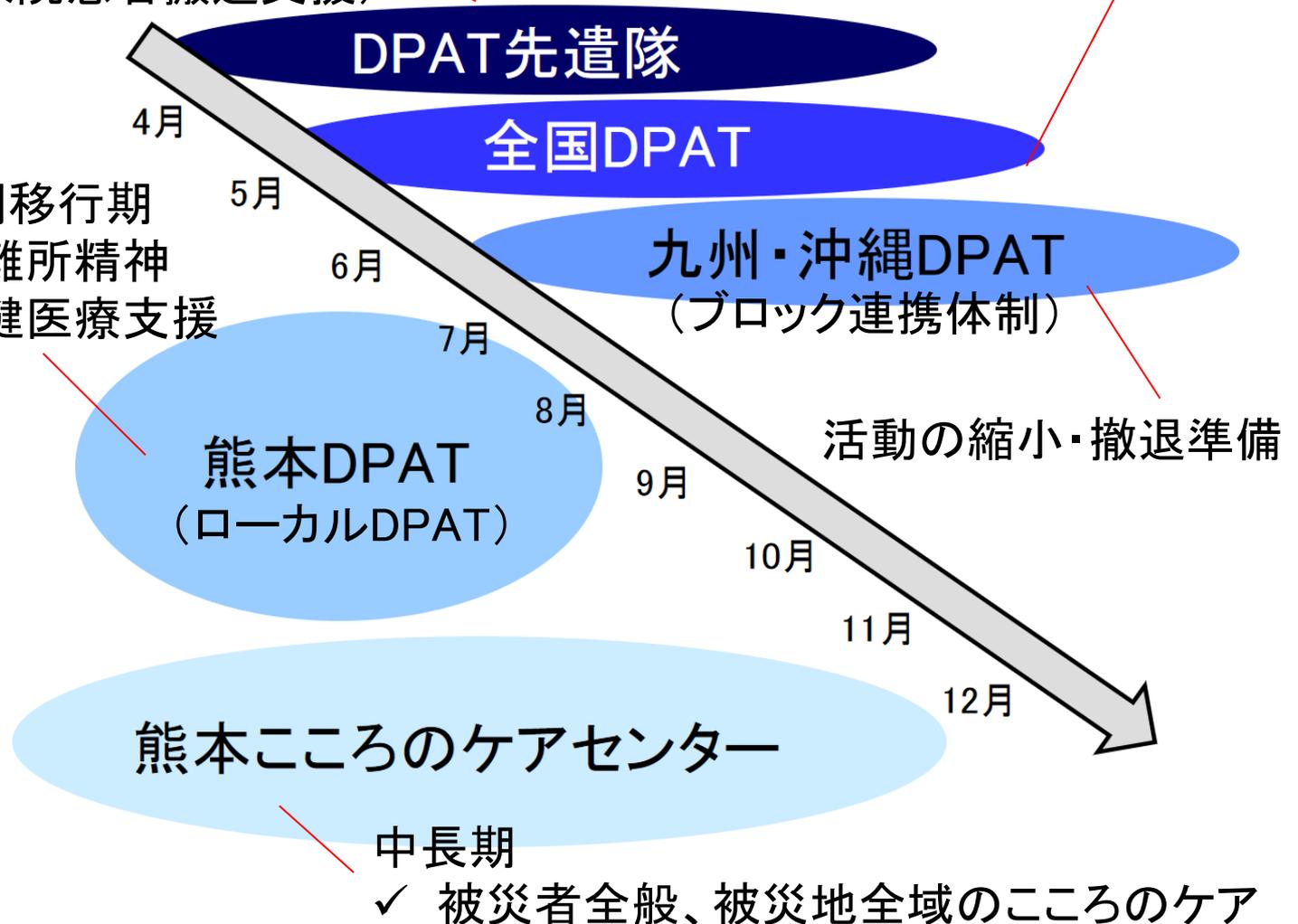
支援枠組みの推移

急性期

- ✓ 本部立ち上げ
- ✓ 精神科病院支援
(入院患者搬送支援)

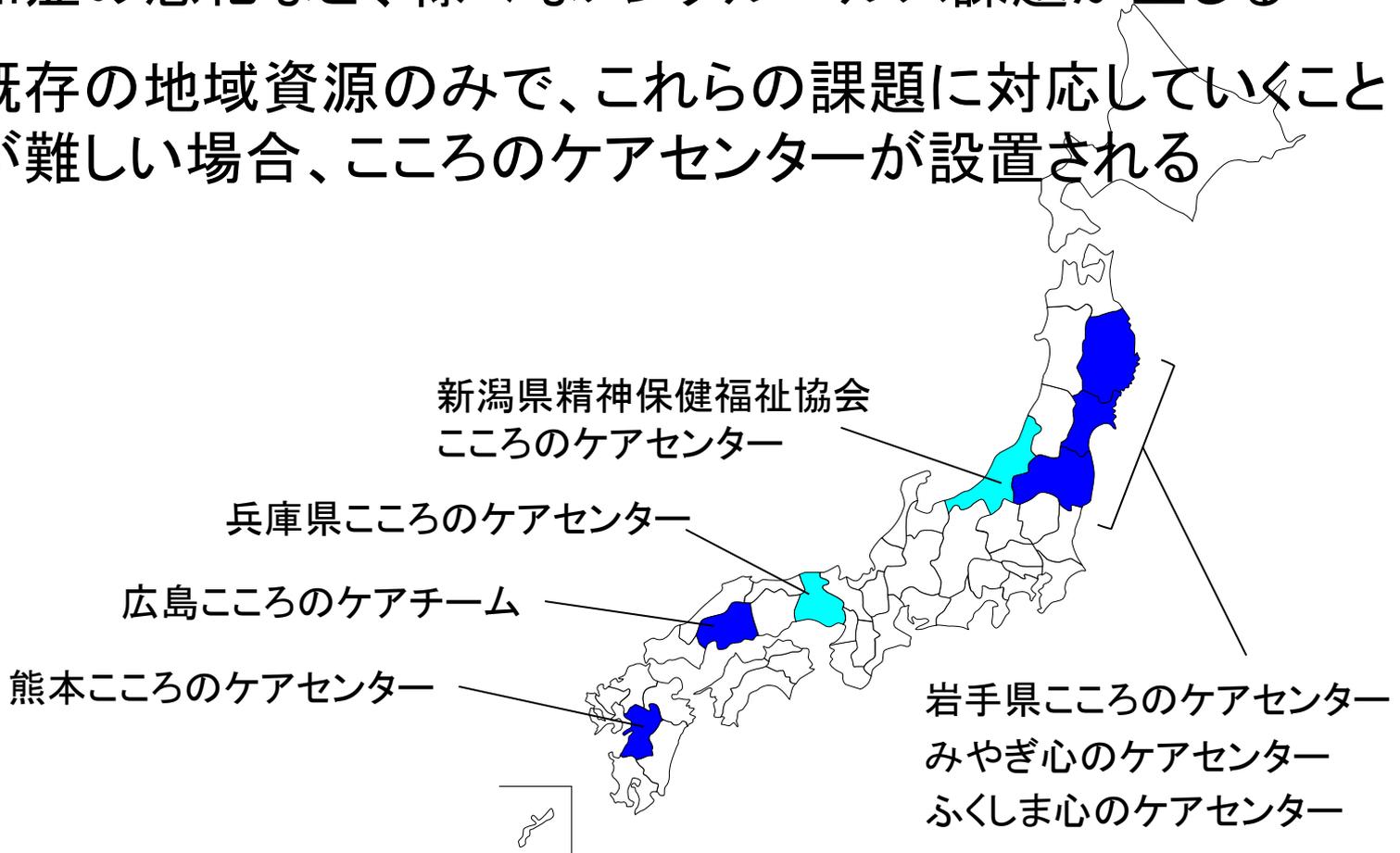
亜急性期

- ✓ 避難所精神保健医療支援
- ✓ 支援者のメンタルヘルスケア



こころのケアセンター

- 災害復興期には、うつや不安、不眠、アルコール問題、認知症の悪化など、様々なメンタルヘルス課題が生じる
- 既存の地域資源のみで、これらの課題に対応していくことが難しい場合、こころのケアセンターが設置される



アウトリーチ対象者連続303例の診断内訳

診断名	N
うつ病	49
アルコール依存症	19
認知症	19
統合失調症	12
適応障害	12
精神発達遅滞	12
自閉症スペクトラム障害	8
心的外傷後ストレス障害	7
妄想性障害	6
注意欠陥多動性障害	5
身体表現性障害	5
特定不能の不安障害	5
パニック障害	3
その他	15
不明	17
精神科診断名なし	120

※ 疑い病名含む

熊本地震復興期の被災者の声

—平成30年4月の電話相談より—

- 地震で農地がやられて収入が激減。回復の見込みなし
- 自宅は全壊、工場は半壊
- 仮設暮らしに父親の死去、母親の介護、いろいろなことが重なり、先が見えない
- 介護や経済的困窮で悩みがつきない。飲酒量が増えた
- 地震後、仮設入居。難病を発症した。生きる望みがない
- 住む家が決まっていない。義父の死去で相続問題も...
- 折り合いの悪い母親から手続きを頼まれるが、苦言ばかり
- 仮設を6月で退去しなくてはいいけないが行き先がない
- 不動産業者に騙されて自宅再建が進まない

事例提示

- ケース1. 50代男性 うつ病
- ケース2. 80代女性 心の不健康

熊本地震後、アルコール依存症が増加？

熊本地震2年

関連ニュースはこ

アルコール依存、相談件数3.6倍と急増

会員限定有料記事 毎日新聞 2018年4月18日 07時30分 (最終更新 4月18日 07時30分)

自然災害 >

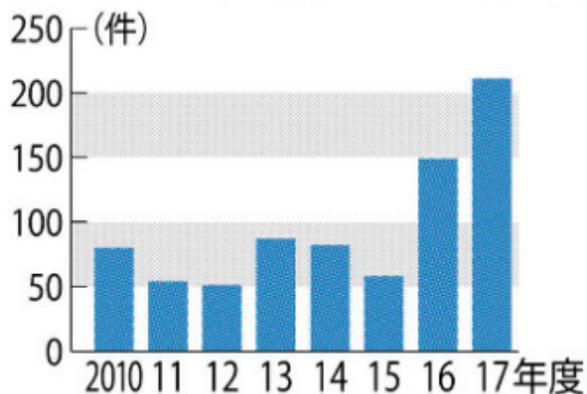
社会一般 >

速報 >

気象・地震 >

社会 >

アルコール依存症についての相談



※熊本県障がい者支援課まとめ

アルコール依存症についての相談

17年度211件 過度のストレス解消のためか

熊本県に寄せられたアルコール依存症に絡む相談件数が2017年度は211件に上り、熊本地震（16年4月）前の15年度の58件に比べて3.6倍と急増していることが、県への取材で分かった。最大震度7の激震が2度襲った地震では自宅や仕事を奪われた被災者が多い。過度のストレスを解消するために酒に頼ったという相談もあり、県は態勢を強化して被災者の相談に応じている。

事例提示

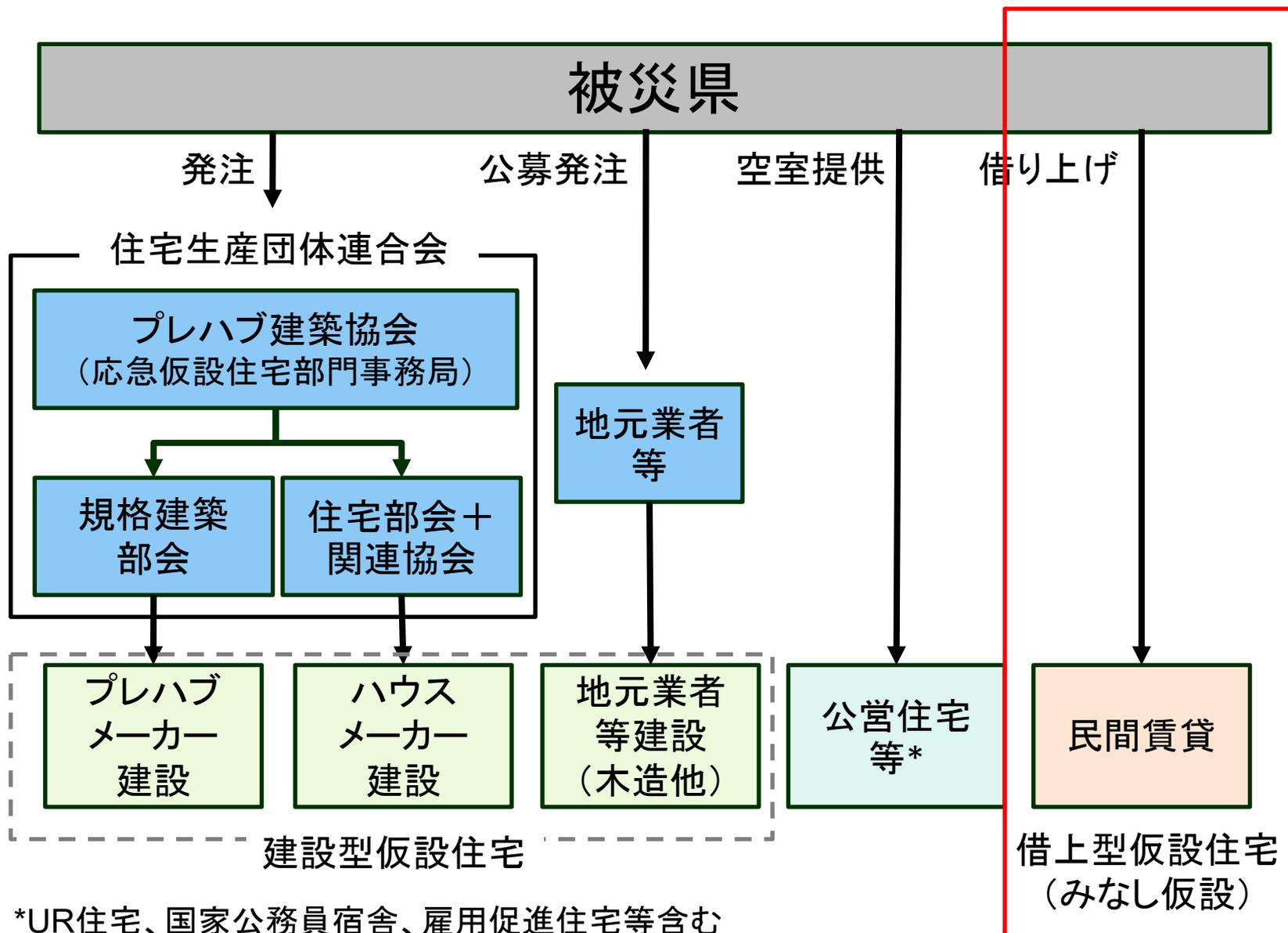
- ケース3. 50代男性 アルコール依存症
- ケース4. 50代男性 アルコール依存症

居住区分と γ -GTP悪化との関連

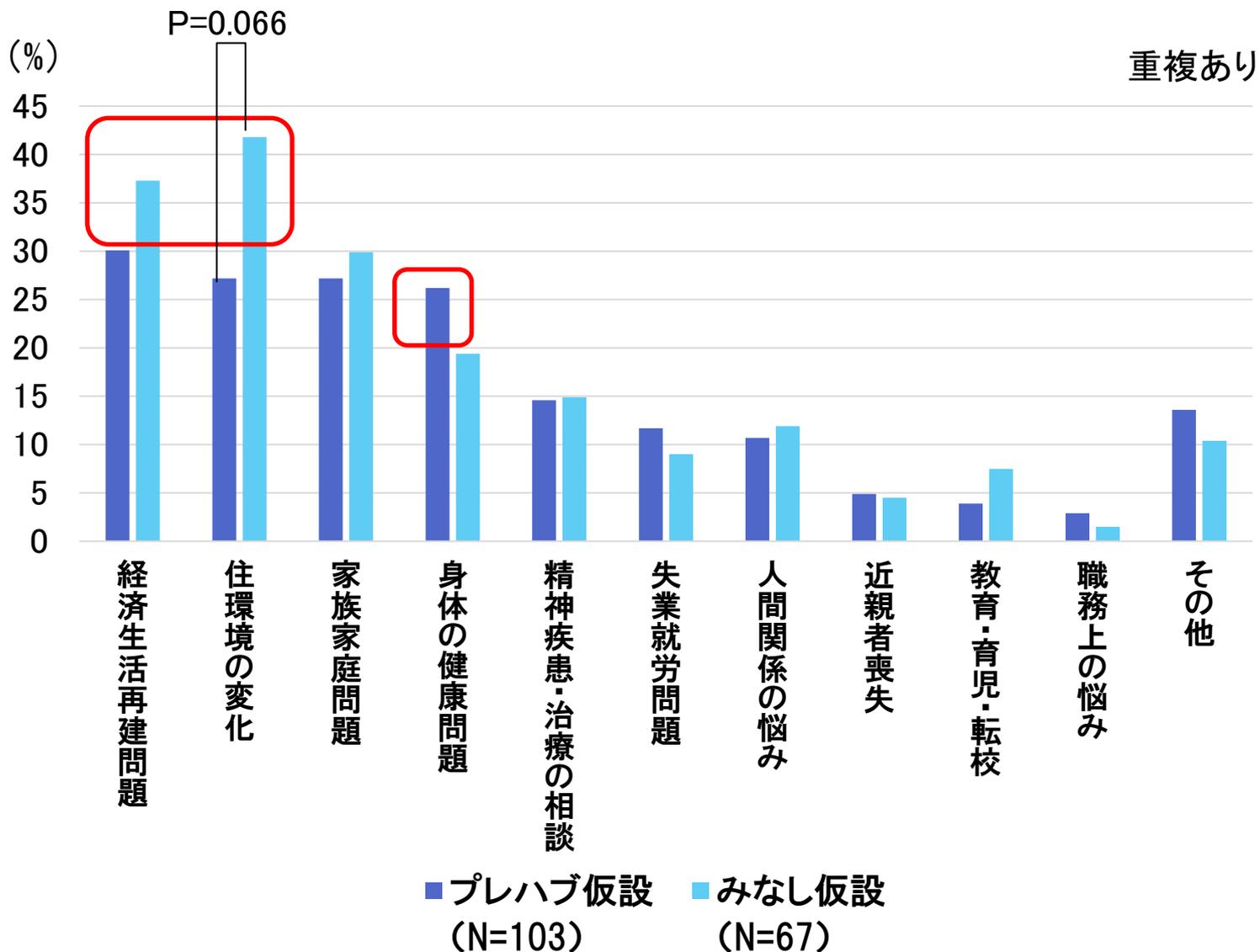
	震災前と 同じ	プレハブ 仮設	みなし 仮設	家族・友人・ 親戚宅	新居
対象者数	331	201	55	17	13
悪化群 対象者数	24	28	13	3	1
性・年齢 調整解析	1.00 (Reference)	1.71 (0.94-3.13)	3.54 (1.62-7.73)	2.91 (0.73-11.59)	1.33 (0.16-11.30)
多変量 調整解析	1.00 (Reference)	1.59 (0.85-2.98)	3.29 (1.44-7.55)	3.56 (0.88-14.49)	1.30 (0.14-11.69)

厚生労働科学研究費補助金分担研究報告書
「震災後3年目の居住区分と γ -GTP悪化との関連」(辻 一郎)

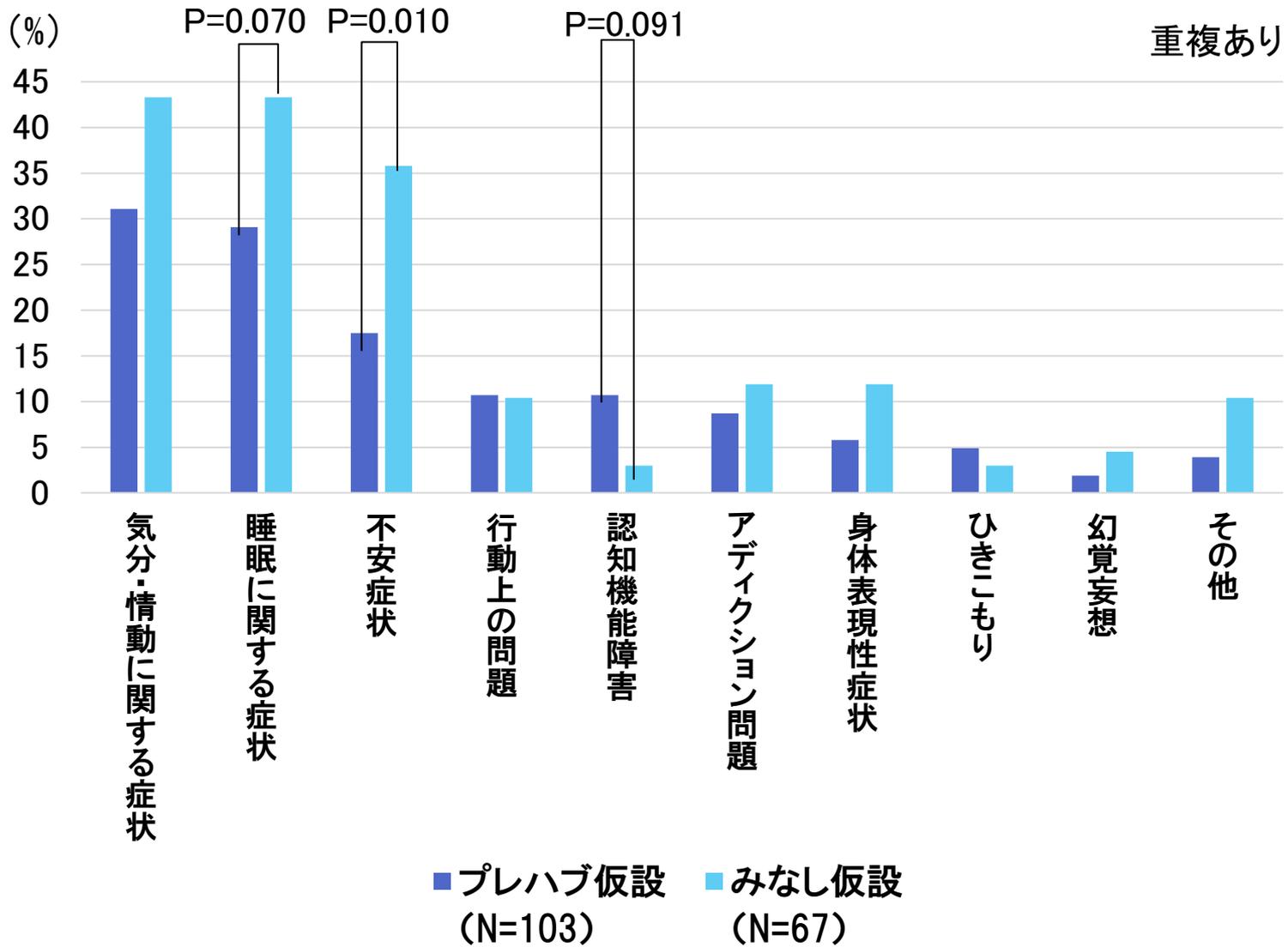
応急仮設住宅の種類



建設型vs借上型__ストレス要因の比較

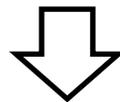


建設型vs借上型__精神症状の比較



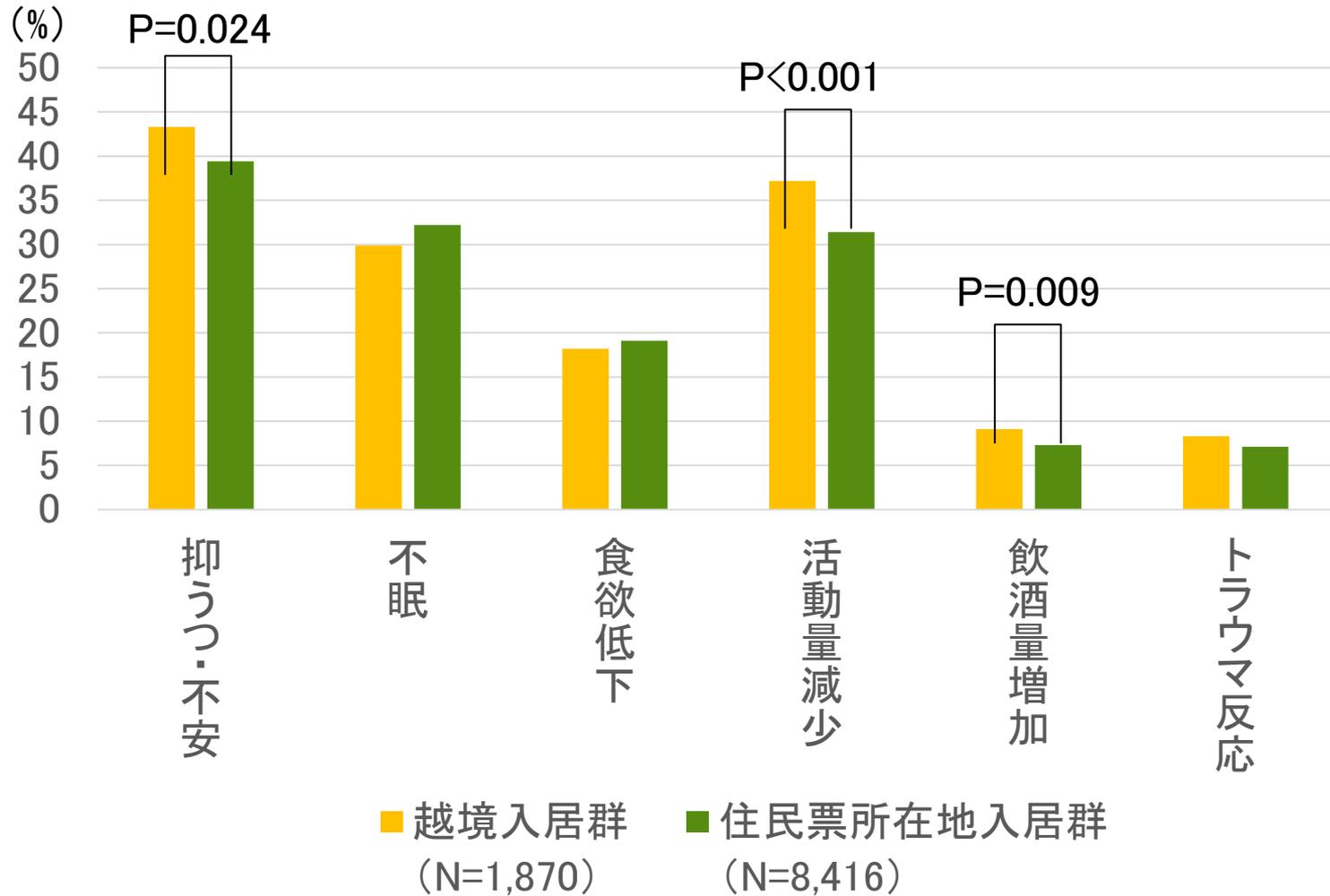
建設型vs借上型__メンタルヘルスの観点から

- 既存のアパート等を利用したみなし仮設のほうがプレハブ仮設よりも住みやすいのではないだろうか？
 - 情報や支援の谷間に置かれがち
 - みなし仮設には上下階トラブル・リスクがある
 - 「2Fの子どもの足音がうるさい」
 - 「足腰が悪いのに3Fまであがらないといけない」
 - コミュニティの恩恵を受けにくい;被災体験や生活再建の悩みを共有できない孤立感がある(→プレハブ仮設のメリット)



- みなし仮設にはバーティカルなトラブルのリスクと様々な思いの共有困難等があり、**主観的な住みにくさ**がある
- プレハブ仮設にはある種の**不安抑止効果**がある

越境 vs 住民票所在地



建設型仮設とみなし仮設の比較

建設型仮設	みなし仮設
入居までに時間を要する	早期に入居できる
設置コスト:高	設置コスト:低
同じ境遇の者が集まるため、コミュニティが構築されやすい	被災者が点在・分散するため、コミュニティの構築が難しい
ボランティア団体等の活動対象になりやすく、様々な支援が受けやすい	ボランティア団体等の活動対象になりにくく、様々な支援が受けにくい



みなし仮設は見守りが難しい

地域支え合いセンター

熊本県地域支え合いセンター支援事務所(運営:熊本県社会福祉協議会)

運営支援

市町村地域支え合いセンター
(運営:市町村社会福祉協議会等)

生活支援相談員による見守り・巡回訪問などを通じて、各種専門機関等と連携して、生活再建を総合的に支援する

- 総合相談受付
- 訪問等による見守り・生活状況の確認
- 課題の把握と専門機関へのつなぎ
- コミュニティづくりのコーディネート
- 健康づくり支援、健康相談対応
- サロン活動等の実施、住民主体の取組支援 等

連携・協力

各種専門機関等

- 地域リハビリテーション広域支援センター(生活不活発病防止等)
- こころのケアセンター(被災者の心のケア)
- 地域包括支援センター
- 民生委員・児童委員
- 社会福祉法人
- NPO法人
- ボランティア団体
- 住宅再建の相談窓口
- ハローワーク 等

総合的な支援

被災者

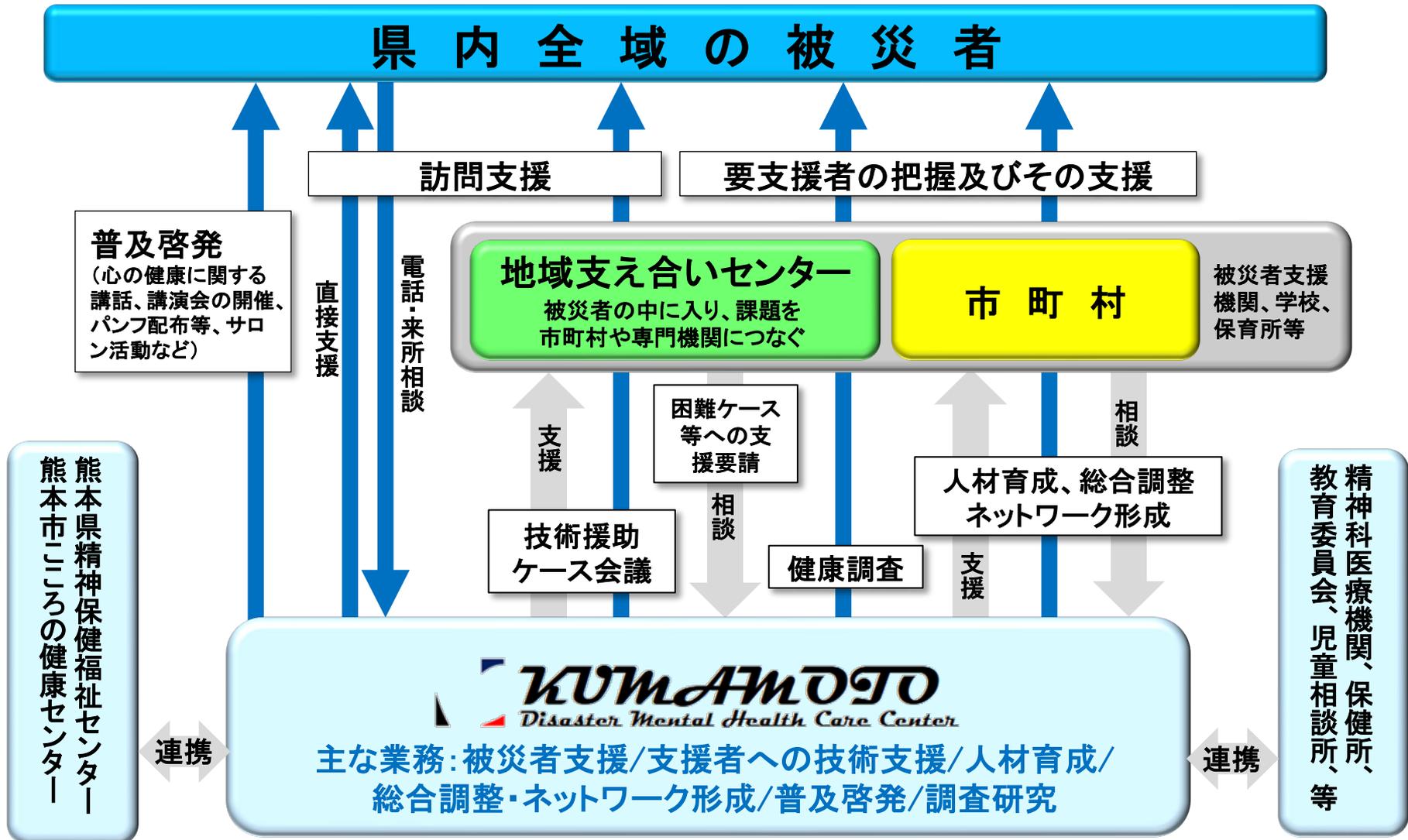
高齢者 障がい者 生活困窮者 子育て世帯等

建設型仮設住宅

借上型仮設住宅

在宅

熊本こころのケアセンターの事業実施体制図



熊本地震の心のケアで最も意識したこと

こころのケアセンターも地域支え合いセンターも時限組織
→自分たちが居なくなっても被災者の心のケアは続く



市町村保健師が主体的に心のケアへ取り組めるように

- 直接支援より後方支援(技術支援)
- OJT: 同行訪問によるOJT
- 使いたくなるようなスキル・パッケージ
 - ✓ PFA、SPR、ゲートキーパー、節酒プログラム
- こころの問題の可視化…健康調査
- 解決することではなく、関わりを持つことを目標に

熊本地震/コロナ禍/令和2年7月豪雨

2020年1月
2020年2月
2020年3月
2020年4月
2020年5月
2020年6月
2020年7月
2020年8月
2020年9月
2020年10月
2020年11月
2020年12月
2021年1月
2021年2月
2021年3月
2021年4月
2021年5月

1月 仮設入居者数4,393人(ピーク時の1/10)

2/21 県内感染確認1例目

4/16 緊急事態宣言(~5月25日)

7/26 県内初クラスター

8月 仮設入居者数998人

11/27 県内感染確認1,000例目

1/13 県独自の緊急事態宣言(~2月1日)

2月 仮設入居者数494人

3/7 新阿蘇大橋開通

4月 熊本城天守閣完全復旧

7/3 令和2年7月豪雨発災

7/4 DPAT活動開始

7/26 DPAT活動終結

熊本こころのケアチーム

活動開始

12/28 避難所閉鎖

1月 仮設入居者数4,217人(ピーク)

熊本地震復興期

コロナ禍

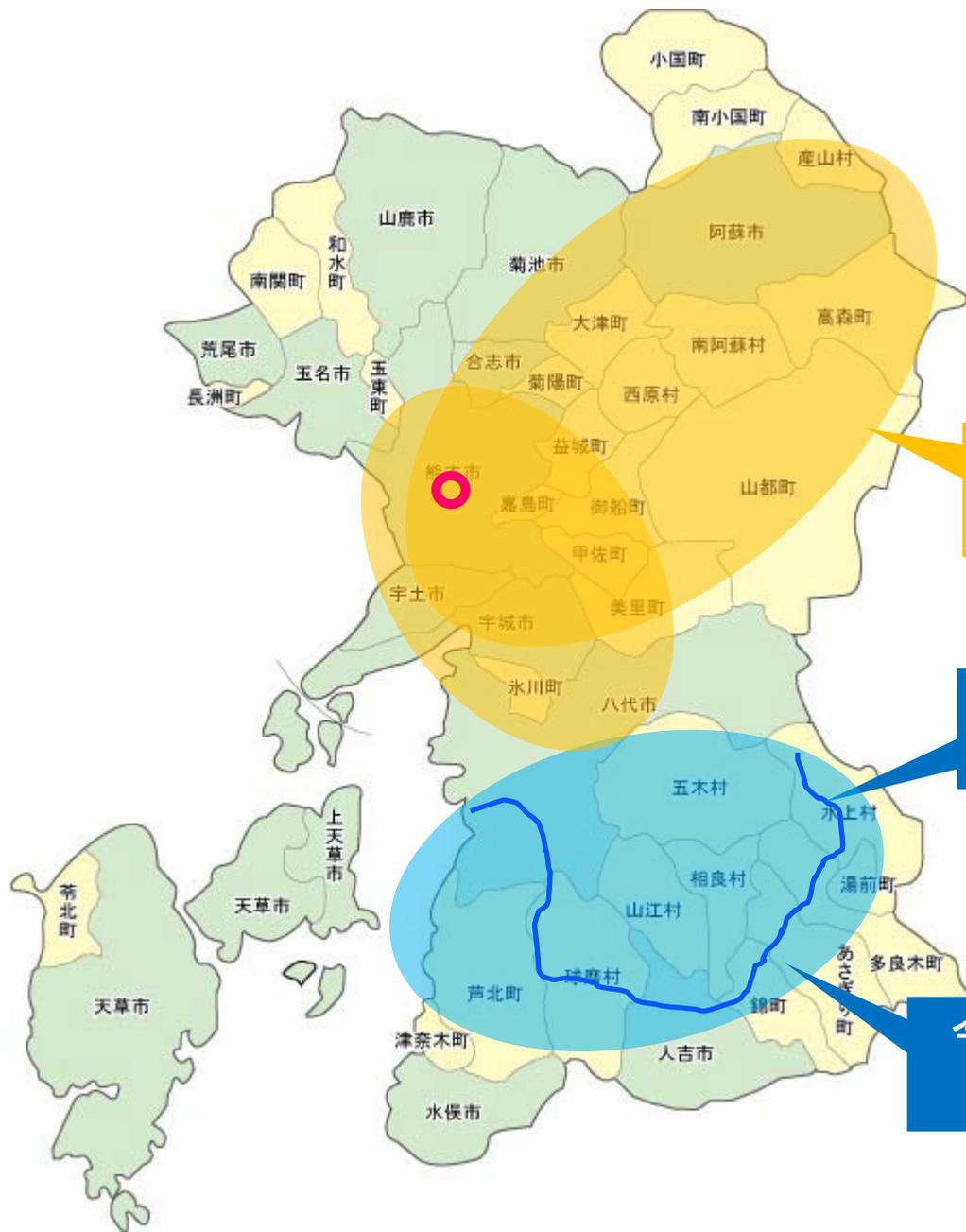
豪雨災害急性期

令和2年7月豪雨

- 令和2年7月3日以降に熊本県を中心に九州や中部地方など日本各地で集中豪雨が発生
- 熊本県では球磨川水系が氾濫・決壊し、八代市、芦北町、津奈木町、球磨村、人吉市、相良村にて浸水や土砂崩れによる甚大な被害が出た
- コロナ禍が外部支援やボランティア確保に影響

【熊本県の被害状況(7/26時点)】

- 死者65人、行方不明者2人
- 全壊557棟、半壊43棟、一部破損218棟、床上浸水5,949棟、床下浸水2,112棟



平成28年熊本地震
被災地

球磨川

令和2年7月豪雨
被災地

令和2年7月豪雨のDPAT活動

【活動期間】7月4日～7月28日(25日間)

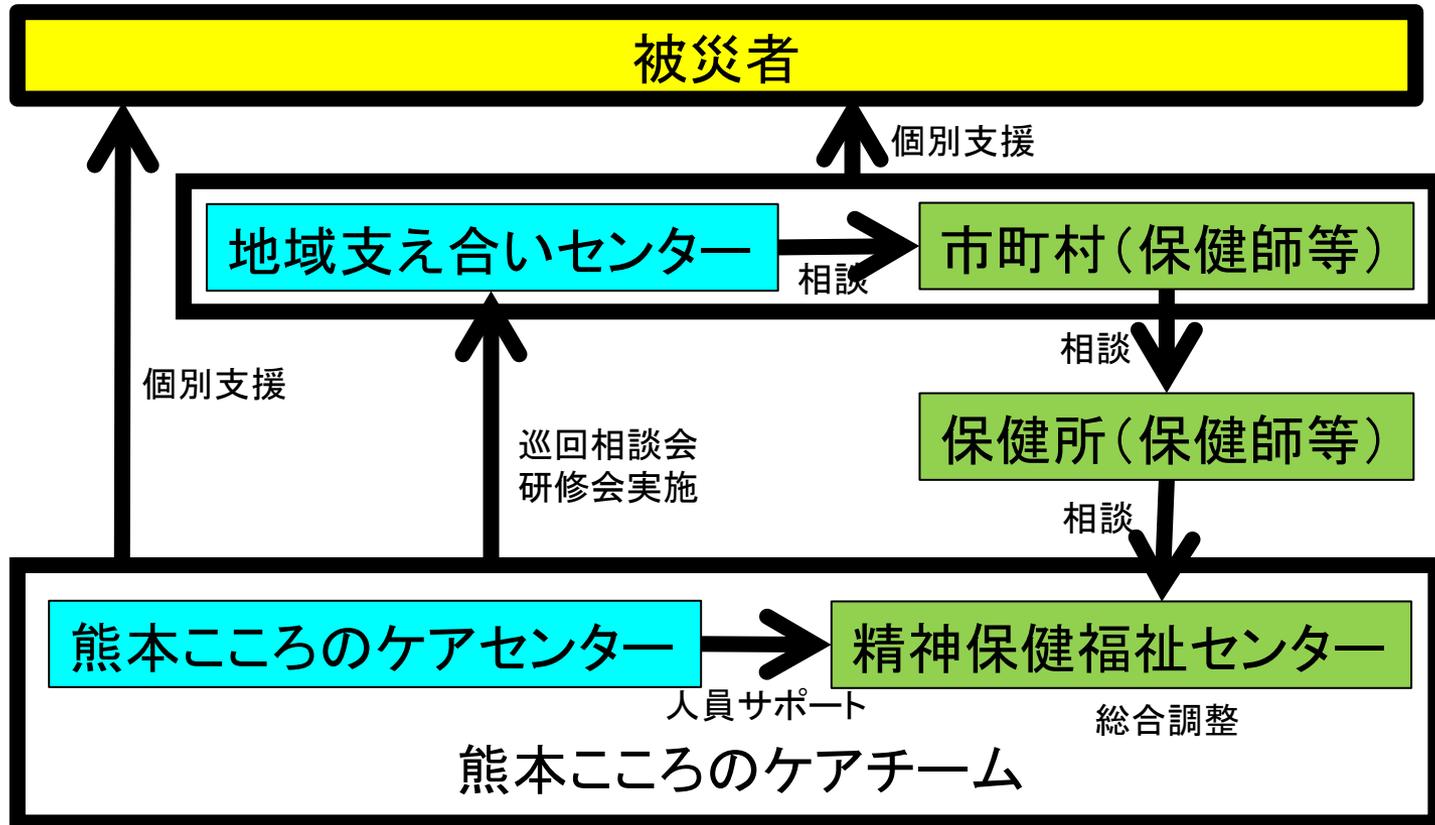
【活動隊数】16隊(県内11隊、県外5隊(沖縄3隊、佐賀1隊、山口1隊))

【対応件数】110件(うち診察件数41件)

【活動概要】

- 7/4 調整本部設置(統括:県精保センター所長)
県内先遣隊6隊に待機依頼
- 7/5 八代・水俣方面活動拠点本部を設置→避難所支援開始
- 7/6 人吉・球磨方面活動拠点本部を設置
- 7/7 県外チームの派遣要請
- 7/8 沖縄DPAT 2隊が派遣、活動開始
- 7/11 水俣・芦北方面活動拠点本部を設置
- 7/13 県外支援者が帰県後に新型コロナ陽性の公表
- 7/14 統括者会議で早期に地元-地元支援へ移行する方針が決定
- 7/18 調整本部を県庁から県精保センターへ移設
拠点本部3箇所を閉鎖
以後、県精保センターチームにて本部運用兼現地活動を実施
- 7/28 DPAT活動終了

熊本こころのケアチームの活動概要



■ 災害時の精神保健関係機関

■ 平時の精神保健関係機関

※ コロナ禍を鑑みて、可能な限り地域完結型支援を目指した体制

熊本こころのケアチーム 活動実績

2020年7月～2021年3月

アウトリーチ対応	26件
支援者への技術支援	30件
ケース検討	24件
八代市地域支え合いセンター巡回相談会	4回
球磨村地域支え合いセンター巡回相談会	4回
市町村等との協議等	<u>54件</u>
研修会開催	7件
被災者こころの支援研修会	5回(17/19/22/9/22名)
PFA研修会	2回(25/32名)

水害と心のケア (vs地震、私見含む)

- 地域内でも被害のコントラストが明確
 - 最初から格差感がはっきり
 - 被災体験の共感や語りに支障
- 遺族ケアの機会が多い
 - 災害であり仕方なかったと割り切れない。大雨が来ることはわかっていた…にも関わらず避難しなかった、させなかった後悔
- リマインドの多さ
 - 「雨」や「川」
- 地震よりも社会の関心が冷めやすい
 - 支援の少なさ
 - つらさや困りごとを吐露しにくい

事例提示

- ケース5. 全壊の家で暮らす男性
- ケース6. ゴミ屋敷の男性
- ケース7. 犬屋敷の女性
- ケース8. 車中泊を続ける男性
- ケース9. アルコール依存の夫婦

5年間を振り返って思うこと 災害時こころのケアの基本姿勢

1) とりあえず関わる

2) 関わり続ける

<http://www.kumakoko.jp>

熊本こころのケアセンター

検索



ご清聴有難うございました。